

カーネーションうどんこ病の初確認について

1 発生の経緯

2002年3月、県内の施設栽培カーネーションで、茎葉が白い粉状のもので覆われる症状が発生した。その後ハウス全体にこの症状が蔓延した。独立行政法人農業技術研究機構花き研究所に診断を依頼したところ、本病害は糸状菌(*Oidium dianthi*)によるカーネーションうどんこ病と診断された。本県における確認は、今回が初めてである。

2 発生状況

- (1) 発生地点 宮城県内
- (2) 品 種 ライトピンクバーバラ、ホワイトバーバラ、テッシーノ、ロイ、レニーほか
- (3) 栽培様式 施設土耕栽培
- (4) 発生面積 約2,000m²

3 病徴及び被害

本病は、下位葉から発生し、次第に上位葉へ移行する。着花以降は、主に花蕾及びがくに発生する。



葉の病徴



蕾の病徴



花の病徴

4 病原菌の性質

(1)病原菌 糸状菌(*Oidium dianthi*)

(2)生育適温 15 ~ 20

春・秋に発生しやすい、湿度が高いと出やすい。発生は盛夏には一旦おさまるが、気温が低くなってくると再び発生するので注意が必要である。

5 伝染方法

空気伝染

6 防除対策

(1) 不用な葉を摘み取り、株間の通気を良くする。

(2) 施設内は、十分に換気する。

(3) 発病株の残さ等を処分する場合は、ビニールをかけるなどして孢子が飛散しないようにする。

(4) 発病したところでは、土壤消毒を行う。

(5) 無病株の定植を行う。